Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

3月号—No.299
2020.2.25
（毎月1回25日発行）

【サーモン・ピンク】オレンジがかったピンク色のこと。

よく知られた鮭の身の色に由来する色名。欧米では美しい鮭の色によほどこだわりがあるのか、焼いたような濃い色、若い鮭のような淡い色、皮の近くのくすんだ色をサーモン・オレンジ、サーモン・ローズ、サーモン・パフなどと呼び分けている。

●目次／*contents*

今月のニュース……2
令和元（2019）年度「地域創造大賞（総務大臣賞）」表彰式
平成30（2018）・令和元（2019）年度「市町村立美術館活性化事業」報告

財団からのお知らせ……4
「公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）」公開プレゼンテーション開催のお知らせ／令和元（2019）年度「公立美術館出前（オーダーメイド）型研修事業」開催報告／地域創造ホームページリニューアルのお知らせ／「第20回地域伝統芸能まつり」テレビ放映のご案内

今月の情報……6
地域通信／アーツセンター情報

今月のレポート……12
岩手県宮古市　宮古市民文化会館
みやこ市民劇第2回公演『鍬ヶ崎エレジー 激闘！宮古港海戦』

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9F
Tel. 03-5573-4183　Fax. 03-5573-4060
URL: http://www.jafra.or.jp/

令和元(2019)年度
地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式

平成30(2018)・令和元(2019)年度
市町村立美術館活性化事業

●令和元(2019)年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」表彰式

左:斎藤洋明総務大臣政務官による受賞施設への表彰状・楯の授与/右:斎藤政務官と受賞施設関係者、審査委員との記念撮影

令和元(2019)年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」の表彰式が1月17日、東京・グランドアーク半蔵門で行われました。この賞は、地域創造設立10周年を記念して、地域における文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰する総務大臣賞として創設されたものです。これまでに116施設が表彰され、その活動は広く全国に紹介されています。16回目となる今年度は全国から7施設の受賞が決定し、斎藤洋明総務大臣政務官のご臨席の下、表彰式が行われました。

主催者である一般財団法人地域創造の板倉敏和理事長の挨拶に続き、受賞施設の多彩な取り組みが映像で紹介されました。斎藤洋明総務大臣政務官から表彰状・楯の授与に続き、「(受賞施設が行う)住民と連携した文化・芸術活動の取り組みは、それぞれの特性を活かした地域づくりに繋がるものであり、人々が支え合う持続可能な社会の構築に大きく貢献していただいていると考えています。今後とも、全国の公立文化施設のモデルとして、文化・芸術の振興にお力添えを賜りますようお願い申し上げます」(政務官代読)との高市早苗総務大臣の祝辞が披露されました。

受賞施設を代表し、暮らしの中にある美術館として活力ある地域づくりに貢献した塩竈市杉村惇美術館で受賞した佐藤光樹塩竈市長より、「塩竈市杉村惇美術館は昨年11月に開館5周年を迎えたばかりの施設であり、市の指定文化財として指定されている美術館の建物など貴重な文化資源を活かしながら、中心市街地のにぎわい創出事業や、若手アーティストの発掘と育成、芸術文化を通じた教育普及活動など、市民や各団体と連携して幅広い事業を展開しています。公立の芸術文化施設が意欲的にまちと繋がり、アートをキーワードとして、人と人を繋げ、創造力を育んでいくことは、地域活性化の実現に大きな役割を果たすものと信じています。私たち受賞施設一同はこの栄誉を誇りとして、この賞の趣旨に応えるべく、今後とも文化・芸術による地域振興やまちづくりをさらに推進してまいります」という決意を込めた謝辞をいただきました。

今回の賞は、受賞された施設のみならず、日頃からそれらの施設を支え、文化・芸術による地域づくりに参加していただいている地域の皆様のご協力に対する感謝を込めて贈られるものです。心よりお祝い申し上げますとともに、今後のさらなるご活躍を期待しています。

●令和元(2019)年度地域創造大賞(総務大臣賞)受賞施設
- 宮古市民文化会館[岩手県宮古市]
- 萬鉄五郎記念美術館[岩手県花巻市]
- 塩竈市杉村惇美術館[宮城県塩竈市]
- 神奈川県立近代美術館[神奈川県]
- 上田市交流文化芸術センター[長野県上田市]
- 大阪府立江之子島文化芸術創造センター(enoco)[大阪府]
- アルカスSASEBO[長崎県及び佐世保市]

●地域創造大賞審査委員会
●委員長
田村孝子(文化ジャーナリスト、公益社団法人全国公立文化施設協会 副会長)
●委員長代理
吉本光宏(株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事(社会研究部 芸術文化プロジェクト室長兼務))
●委員
板倉敏和(一般財団法人地域創造 理事長)
熊倉純子(東京芸術大学大学院国際芸術創造研究科長 教授)
小林真理(東京大学大学院人文社会系研究科 教授)
坪池栄子(株式会社文化科学研究所 編集プロデューサー)
仲道郁代(ピアニスト)
柳沢秀行(公益財団法人大原美術館 学芸課長)

*五十音順

●平成30(2018)・令和元(2019)年度「市町村立美術館活性化事業」報告

左:展示室の様子(上田市立美術館)/中:ワークショップ「木によるリトグラフ」(安城市民ギャラリー)/右:「簡単!!修正液で描くスピード版画教室」(須坂版画美術館・平塚運一版画美術館)

平成30(2018)・令和元(2019)年度市町村立美術館活性化事業「見て、感じて、遊ぼう!はんが遊園地—府中市美術館のゆかいな創作版画コレクションより—」展が、上田市立美術館(2019年4月20日～6月2日)、安城市民ギャラリー(6月8日～7月15日)、掛川市二の丸美術館(7月20日～9月1日)、須坂版画美術館・平塚運一版画美術館(9月12日～10月29日)、勝央美術文学館(11月9日～12月1日)にて開催されました。

19回目となる今回は、府中市美術館のご協力のもと、創作版画コレクションの中でも作品の温かみやおかしみに着目し、選りすぐりの愉快な作品約100点の展示が実現し、多くの方々に作品をご覧いただきました。知識だけではなく感性で楽しくみてもらいたいという担当学芸員の思いから、作品のイメージに沿って作品を分類して展示しました。作品解説では、学芸員が作品の登場人物になり切ってその作品のおかしみを紹介し、展示室内では、版画の多色刷りを体験してもらうためのスタンプラリーを設置するなど工夫を凝らしました。来館者からは「難しくなく、子どもと一緒に楽しくみることができた」、「学芸員の作品解説がユニークで面白かった」などの声をいただきました。

そのほか、巡回各館ではそれぞれの地域の版画文化を知ってもらうコーナーも展開。例えば、掛川市二の丸美術館では、明治時代に掛川茶を輸出する際の木箱に貼られた、木版多色刷りのラベル『蘭字』を展示。掛川市の文化と生活の中の身近な版画を紹介しました。

またこの事業では、展覧会の開催のみならず、企画内容に即したワークショップ等の地域交流プログラムを実施しています。勝央美術文学館では、講談師の宝井琴鶴さんの協力のもと、この巡回展のためのオリジナル講談イベントを開催。地域版画コーナーで現代作家を取り上げた安城市民ギャラリーでは、ワークショップでも作家によるプログラムを多数実施しました。その他の美術館も、開くと絵が変わるからくりカードを版画でつくるワークショップ(上田市立美術館)や、消しゴムはんこづくり(掛川市二の丸美術館)、修正液で描くスピード版画教室(須坂版画美術館・平塚運一版画美術館)など、地域の方が気軽に版画にふれあえるイベントを開催しました。

本事業は、地域創造の提示した企画案を、開催各館の学芸員が、貸出協力館アドバイザーの助言のもと、学芸会議等で議論を重ねながら具体化していきます。他館の学芸員と共同巡回展づくりを通して連携を深め、ノウハウを共有し、多くの成果をもたらす事業となりました。

令和元(2019)・2(2020)年度市町村立美術館活性化事業では、「瀬戸蔵ミュージアム・瀬戸市美術館所蔵　瀬戸焼　受け継がれる千年の技と美」展を、江別市セラミックアートセンター、東根市公益文化施設まなびあテラス、不二竹鼻町屋ギャラリー、四日市市文化会館にて開催予定です。また令和4(2022)年度開催の市町村立美術館活性化事業の参加館募集は、2020年6月頃を目処に行う予定です。地域創造ホームページをご確認の上、ふるってご参加ください。

上:「ギャラリートーク」(掛川市二の丸美術館)/下:宝井琴鶴講談会「創作版画講談」(勝央美術文学館)

●平成30(2018)・令和元(2019)年度公立美術館活性化事業【市町村立美術館活性化事業】
「見て、感じて、遊ぼう!はんが遊園地—府中市美術館のゆかいな創作版画コレクションより—」
[主催]第19回共同巡回展実行委員会ほか
[特別協力]府中市美術館
[会場]上田市立美術館(長野県上田市)、安城市民ギャラリー(愛知県安城市)、掛川市二の丸美術館(静岡県掛川市)、須坂版画美術館・平塚運一版画美術館(長野県須坂市)、勝央美術文学館(岡山県勝央町)
[助成](一財)地域創造

●公立美術館活性化事業に関する問い合わせ
総務部　高野
Tel. 03-5573-4143

財団からのお知らせ

●「公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）」公開プレゼンテーション開催

公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）の2020・2021年度登録アーティスト6組による公開プレゼンテーションを開催します。このプレゼンテーションは、令和2（2020）年度におんかつ導入プログラムを実施する団体を対象に行うものですが、今後、おんかつ事業の実施を検討している公共ホール担当者や当事業に関心のある方にも公開して行います。

プレゼンテーションでの演奏やトークを通して、おんかつの枠組みである学校や福祉施設等でのアクティビティ（地域交流プログラム）と、ホールでのコンサートに各アーティストがどのような姿勢で臨むのかを知ることができる絶好の機会です。

おんかつ公開プレゼンテーション概要

[日程] 2020年4月21日（火） 15：00開演（予定）
[会場] ヤマハホール
（東京都中央区銀座7-9-14）
[内容] 各組20分程度のプレゼンテーション
[出演] 2020・2021年度登録アーティスト
齊藤一也（ピアノ）
石上真由子（ヴァイオリン）
梅津碧（ソプラノ）
竹多倫子（ソプラノ）
新野将之（打楽器）
實川風・高橋ドレミ（ピアノデュオ）

◎観覧を希望される方は、当財団ホームページの「参加申込フォーム（https://www.jafra.or.jp/event-request/01/」よりお申し込みください（右QRコードよりアクセスできます）。

●令和元（2019）年度「公立美術館出前（オーダーメイド）型研修事業」開催報告

この事業は、地域創造と申請館の共催で、申請館の関心のあるテーマのもと、2年間にわたって複数回講師を派遣し、半日ほどの公立美術館のマネジメントに関する研修を行うものです。今年度は、酒田市美術館（山形県）と丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川県）と共催でゼミを開催しました。

酒田市では、市内の勤労福祉センターなどを会場に、酒田市、鶴岡市、庄内町など庄内地域の公立美術館や、美術館の所管部局の行政職員を対象に2回のゼミを開催しました。1回目は「これからの公立美術館・博物館に求められる役割とは？―小規模館に焦点を当てて」というテーマのもと、北海道大学の佐々木亨教授から公立博物館の事業評価についてのご講義、板橋区立美術館の松岡希代子館長代理から事例紹介をしていただき、これからの小規模館の役割について考えました。2回目は「伝える力を身につける」というテーマで、株式会社ノイエ代表取締役の熊谷淳一氏からチラシなどの広報物や展示パネルの基礎を実践形式で学びました。庄内地域の美術館の職員同士が集まることのできる貴重な機会ともなり、情報交換をする様子も見られました。

丸亀市では、丸亀市役所の会議室を会場に、丸亀市、香川県、高松市など、主に香川県内の美術館、所管部局の行政職員などを対象にゼミを実施しました。「公立美術館の存在意義とは」というテーマのもと、静岡文化芸術大学の片山泰輔教授より、公立文化施設を税金で運営する理論的根拠から公立美術館の公益性・公共性についてお話いただき、石橋財団アーティゾン美術館の貝塚健教育普及部長からは、美術館・博物館の倫理規程・行動規範の必要性についてご講義いただきました。講義の後、お二人の講師のお話を基に、今後の美術館・美術館職員の役割について考えました。

それぞれの課題意識のもと開催した研修を通して、美術館同士の相互交流にも繋がり、マネジメントに関する意識向上に繋がった事業となりました。

酒田会場の様子（酒田市勤労福祉センター）

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部　永田
Tel. 03-5573-4069

●公立美術館出前（オーダーメイド）型ゼミに関する問い合わせ
総務部　高野
Tel. 03-5573-4143

●地域創造ホームページをリニューアルしました

地域創造のホームページを2月25日にリニューアルしました。トップページのアドレス(www.jafra.or.jp)は変更ありませんが、個別のページは新しいアドレスになっています。ブックマークに登録している場合は、リニューアル後のホームページで再度ご登録をお願いいたします。

リニューアルによって、当財団の25年間分の蓄積した情報を整理し、これまでの事業実績や登録アーティスト情報をデータベースとしてご覧いただけるようになりました。また、ユーザーの皆様がより見やすく、使いやすいように、メニューや機能等を改良し、地域創造レターは、コーナーごとに絞り込みができるようになりました。各地の文化芸術施設の情報をお伝えする「レポート」や、制作実務がわかる読み物「制作基礎知識」など、ぜひバックナンバーもご活用ください。

新しくなったホームページ、地域創造レターでも情報発信をしていきますので、ぜひご活用ください。

PC版トップ画面(スマートフォン、タブレットの表示も対応しています)

◎「公共ホール求人情報」「公共ホール研修会／シンポジウム開催情報」掲載お申し込み方法の変更について

リニューアルにより「公共ホール求人情報」、「公共ホール研修会／シンポジウム開催情報(※)」に情報を掲載するためのお申し込み方法が変更になりました。これまでは必要事項を記載した書式をメールでお送りいただいておりましたが、登録フォームに必要事項を直接入力していただく方法となります。

登録フォームの送信を行うには、投稿用認証キーとしてIDとパスワードが必要となります。なお、スパム対策のため、ログインIDとパスワードはホームページ上に記載せず、地域創造レター等でお知らせする予定です。お忘れになった場合にはお問い合わせください。

お申し込み方法

❶求人情報登録フォーム、研修会／シンポジウム開催情報登録フォームへアクセス。

❷登録フォームに沿って、必要事項を入力してください。

❸フォームの最下部にある投稿用認証キー欄にID、パスワードを入力。

※スパム対策のため、登録フォームURLおよびログインID、パスワードはホームページ上に記載していません。地域創造レターをご確認いただくか、地域創造までお問い合わせください。

❹登録を完了すると自動で登録完了をお知らせするメールがお手元に届きます。

❺地域創造が内容を確認後、ホームページに情報を公開します。公開完了はメールでお知らせします。登録から情報公開までは2～3日程度お時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※情報を修正する場合には、入力フォームの末尾にあるNo.入力欄に公開完了のメールに記載した登録No.をご入力の上、再度修正情報をご登録ください。セキュリティの都合上、すべての情報を再入力する必要があります。ご了承ください。

※これまでの「人材ネットバンク『人材育成研修開催情報』」という名称から変更しました。

●地域創造ホームページに関する問い合わせ
芸術環境部　三田
Tel. 03-5573-4066

●「公共ホール求人情報」「公共ホール研修会／シンポジウム開催情報」の掲載申し込みに関する問い合わせ
芸術環境部　青井
jinzai@jafra.or.jp
Tel. 03-5573-4093

●「地域伝統芸能まつり」に関する問い合わせ
総務部　宮下
Tel. 03-5573-4056

●「第20回地域伝統芸能まつり」がNHKで放送されます

2月23日(日)にNHKホールで開催の「地域伝統芸能まつり」がテレビ放送されます。今年度は「競う(きそう)」をテーマに、日本各地域の伝統芸能8演目と、古典芸能1演目が披露されます。ぜひご覧ください。

◎放送予定日

2020年3月14日(土)　15:00～16:30
NHK Eテレ「まつりの響き ～第20回地域伝統芸能まつり」

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060　Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　児島・三田

●2020年5月号情報締切
3月16日(月)

●2020年5月号掲載対象情報
2020年5月～7月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ホームページ「人材ネットバンク」掲載情報募集中
当財団ホームページ内に以下の情報を掲載するページを設けています。
◎公共ホール等の求人情報
◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報
掲載・申込方法など詳細はホームページをご覧ください。　http://www.jafra.or.jp/

北海道・東北

●札幌市
北海道立近代美術館
〒060-0001　札幌市中央区北1条西17丁目
Tel. 011-644-6883　大下智一
http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/knb/

北海道151年のヴンダーカンマー　《歴史》と《アート》を集めた《驚異の部屋》へようこそ
北海道150年の歴史を「北海道」「学問」「炭鉱」「鉄道」「祝祭」と5つのテーマに分け、美術館や博物館、図書館などの所蔵品で振り返ると同時に、未来への視線を込めてテーマごとに5人のアーティストによる新作を展示。15～18世紀にヨーロッパで流行した、さまざまな名品を集めた「ヴンダーカンマー(驚異の部屋)」さながらに、展覧する。
[日程]1月25日～3月15日
[会場]北海道立近代美術館

●青森県八戸市
八戸市まちづくり文化推進室
〒031-8686　八戸市内丸1-1-1
Tel. 0178-43-9156　高橋麻衣
https://www.nangoartproject.jp/

南郷アートプロジェクト　島守ダンス映画製作プロジェクト『しまもりさいじき』
縄文時代から人々の暮らしが続く八戸市南郷島守地域の風景や風俗、生活文化から着想を得たダンス映画製作プロジェクト。監督に映像作家の飯名尚人、振付に大駱駝艦の田村一行を迎え、舞踏家と島守地区の住民が出演した3時間の映像作品が完成。上映会場では、撮影で使用した小道具なども展示するほか、最終日には映像に合わせ舞踏や音楽の実演も実施される。
[日程]3月7日、8日、10日～15日
[会場]八戸市南郷文化ホール

住民と大駱駝艦とで、地域の行事や芸能を基にしたシーンを撮影

●秋田県秋田市
秋田市立千秋美術館
〒010-0001　秋田市中通2-3-8(アトリオン)
Tel. 018-836-7860　松尾ゆか
https://www.city.akita.lg.jp/kanko/kanrenshisetsu/1003643/index.html

秋田市制130周年・秋田市立千秋美術館開館30周年記念　ベストコレクション展
開館30周年を迎えた秋田市立千秋美術館は、前身の秋田市美術館時代から数えると約60年間で2,400点を超える作品を収集してきた。本展では、「秋田蘭画と同時代の画家たち」「岡田謙三と秋田の洋画家たち」「木村伊兵衛と秋田」などのテーマを設け、厳選された約120点を展示する。なかでも秋田蘭画は同美術館が収集の柱としており、今年度新たに収蔵した作品も展示される。
[日程]前期:1月25日～2月15日、後期:2月18日～3月8日
[会場]秋田市立千秋美術館

●福島県会津若松市
会津若松文化振興財団
〒965-0807　会津若松市城東町12-1
Tel. 0242-27-0900　山宮勇
http://aizu-bunka.jp/

住民参加型タップダンス公演　第4弾『TAP～rhythm of life～』
平成28年度から実施している住民参加型のタップダンス公演。県内各地から公募で集まった4歳から70歳代までの35人が、タップダンサー・中山貴踏の指導の下、約10カ月間稽古を重ねた成果を披露する。「会津の魅力」をテーマに全員でアイデアを出しあいながら創作した振付や、プロダンサーによる超絶技巧のセッションがみどころ。
[日程]3月8日
[会場]會津風雅堂

関東

●栃木県鹿沼市
鹿沼市立川上澄生美術館
〒322-0031　鹿沼市睦町287-14
Tel. 0289-62-8272　原田敏行
https://kawakamisumio-bijutsukan.jp/

川上澄生 あそびとかたちとかざりの世界 木版画をもっと工藝的に楽しんだら如何だらう 展
「あそび」「かたち」「かざり」の3つの視点から、版画家・川上澄生(1895～1972)の作品を紹介する企画展。伝統的な日本美術の特徴に、遊びの精神性や平面的な造形性、飾りの装飾性が挙げられるが、新奇な主題とあざやかな色彩で構成され、一見現代的に見える川上の作品がいかに日本美術の伝統的な流れに基づいたものであるかを紹介し、その精神性に迫る。
[日程]2019年11月30日～4月5日
[会場]鹿沼市立川上澄生美術館

●群馬県太田市
太田市文化スポーツ振興財団
〒373-0026 太田市東本町16-30
Tel. 0276-55-3036　小金沢智
https://www.artmuseumlibraryota.jp/

太田の美術vol.3「2020年のさざえ堂――現代の螺旋と100枚の絵」
太田市曹源寺にある螺旋状の建造物「さざえ堂」が国の重要文化財に指定されたことを機に、同じく螺旋状の構造から成る太田市美術館・図書館で行われる展覧会。3名の作家(蓮沼執太、三瀬夏之介、持田敦子)が異なる表現方法によってさざえ堂、螺旋をテーマにした作品展示を行うとともに、さざえ堂の

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

「百観音巡礼」に倣い、画家・高橋大輔が計100点の絵画作品を展示する。
[日程] 2月6日～5月10日
[会場] 太田市美術館・図書館

●さいたま市
埼玉県芸術文化振興財団
〒338-8506　さいたま市中央区上峰3-15-1
Tel. 048-858-5500　荻原文子
https://www.saf.or.jp/arthall/

バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン『Venezuela－ベネズエラ』

2018年、およそ30年もの間務めたイスラエルのバットシェバ舞踊団の芸術監督を退任した振付家のオハッド・ナハリンが、芸術監督として手がけた最後の演出・振付作品を日本初上演。強烈なエネルギー、パワフルかつ繊細なムーヴメント、情熱的なラテンダンスが盛り込まれた作品となっている。関連企画として、舞踊団メンバーによるワークショップも開催。
[日程] 3月13日～15日
[会場] 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

●埼玉県和光市
和光市文化振興公社
〒351-0192　和光市広沢1-5
Tel. 048-468-7774　出牛天彦
http://www.sunazalea.or.jp/

サンアゼリア国際音楽演奏会 サンアゼリアスイートR.N.2003 尺八と和楽器を嗜む

2020オリンピック・パラリンピックに向けて音楽による国際交流を目指すシリーズコンサート。今回は、地域での演奏活動にも積極的に取り組む市内在住の尺八奏者・元永拓が、箏奏者・久本桂子との共演で『さくら幻想曲』や『春の海』などの春らしい曲を披露。演奏者と交流できる時間も設けられ、来場者は和楽器奏者との交流を楽しみながら日本文化への理解を深めることができる。
[日程] 3月26日
[会場] 和光市民文化センター サンアゼリア

●東京都渋谷区
渋谷区文化総合センター大和田
〒150-0031 渋谷区桜丘町23-21
Tel. 03-3464-3251　瀬川美保
http://www.shibu-cul.jp

Live Performance SHIBUYA Japanese Bolero《ボレロ》2020

ジャンルレスな創作で舞台芸術ならではの魅力を紹介してきた「Live Performance SHIBUYA」シリーズ。今回は、昨年10月のリニューアルオープンを記念し、LINE CUBE SHIBUYA（渋谷公会堂）で開催。一昨年、同シリーズで新作を発表したダンサー・振付家の森山開次とジャズピアニストの山下洋輔、太鼓奏者の林英哲がモーリス・ラヴェルの『ボレロ』に挑戦。国内外で活躍するトップアーティスト3人が、日本文化を融合した新作を披露する。
[日程] 3月14日
[会場] LINE CUBE SHIBUYA

●東京都台東区
東京文化会館
〒110-8716　台東区上野公園5-45
Tel. 03-3828-2111　古川由布
https://www.t-bunka.jp/

創遊・楽落"夜"らいぶ―音楽家と落語家のコラボレーション― Vol.51

コンサートと落語を一度に楽しめる東京文化会館の人気公演。落語のBGMに音楽があったり、効果音や擬音として音楽が入ったりと、毎回、音楽家と落語家がアイデアを出しあいさまざまな形でコラボレーションをしてきた。今回は新作落語『ラーメン屋』で、池田達也（ベース）、榊原大（ピアノ）、高嶋英輔（ヴァイオリン）のトリオ「たつやせっしょん」と桂米助がコラボレーションする。
[日程] 3月6日
[会場] 東京文化会館 小ホール

桂米助前回出演時の様子（2011年5月Vol.16）　写真提供：東京文化会館

●東京都北区
北区文化振興財団
〒114-8503　北区王子1-11-1
Tel. 03-5390-1221　古川環
https://kitabunka.or.jp/

ショパンの愛したピアノたち～ショパンをとりまくパリのサロン音楽～

クラシック初心者でも気軽に楽しめ、知識を広げられるシリーズコンサート。今回は、ショパンを中心に、リストやフンメルなど19世紀前半のパリで活躍した作曲家の作品を選曲。フォルテピアノ奏者の小倉貴久子が語りを交え、ショパンにまつわる個性豊かな3台のフォルテピアノを演奏。それぞれの音色の聴き比べができる。
[日程] 3月1日
[会場] 北とぴあ さくらホール

●東京都立川市
立川市地域文化振興財団
〒190-0022　立川市錦町3-3-20
Tel. 042-526-1312　岡崎未侑
https://tachikawaoperaassociation.jimdofree.com/

立川市民オペラ公演2020 歌劇『トゥーランドット』

今年で15回目を迎える市民オペラ公演。取り上げるのは8年ぶり2回目となるプッチーニ作曲『トゥーランドット』を新演出で上演する。市民合唱団は、前回より一層レベルの高いパフォーマンスを披露すべく、公演の約1年前から練習に励んでいる。メインキャストには地元国立音楽大学教授の福井敬（テノール）らが出演して地域との連携を深め、青少年のゲネプロ招待など、プレイベントも多数開催し、幅広い層へ向けた活動を展開。
[日程] 3月21日、22日
[会場] たましんRISURUホール（立川市市民会館）大ホール

●横浜市
みどりアートパーク
〒226-0027　横浜市緑区長津田2-1-3
Tel. 045-986-2441　大谷浩之介
http://midori-artpark.jp

東アジア古典芸能の響演～伝統芸能フェスティバル2020

能楽師・岡本房雄（観世流シテ方）の呼びかけで集まった東アジアのパフォーミングアーツ伝承者による公演。日本の能楽、琉球古典舞踊、韓国伝統舞踊、中国の京劇、南インド古典舞踊、モンゴルの馬頭琴・ホーミーが一挙に披露される。ホワイエでは地元の西八朔お囃子保存会、長津田囃子保存会による演奏や、インド人コミュニティのフード販売など地域文化交流も行われ、公演を盛り上げる。
[日程] 3月7日
[会場] みどりアートパーク

●神奈川県平塚市
平塚市美術館
〒254-0073 平塚市西八幡1-3-3
Tel. 0463-35-2111　勝山滋
http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/art-muse/index.html

糸賀英恵展　うつろいのかたち

鍛金作家・糸賀英恵の作品世界を紹介する展覧会。神器や生活の道具として日本古来から人々

の営みを映してきた「銅」の素材を用いた作品は、その硬く重いイメージに反して、柔らかく優しいラインの作品で、「季節や時間のうつろいの中に潜む美」を表現している。外光が降り注ぎ、時とともに様相が変化するテーマホールを会場に展示が行われる。
[日程]2019年12月14日～4月5日
[会場]平塚市美術館

●神奈川県横須賀市
横須賀美術館
〒239-0813　横須賀市鴨居4-1
Tel. 046-845-1211　工藤香澄
https://www.yokosuka-moa.jp/

長沢明展　オワリノナイフーケイ

かつて横須賀にアトリエを構え、現在は東北芸術工科大学で教鞭を執りながら、山形県を拠点に制作を行っている画家・長沢明にとって初の大規模個展。各時期の代表作やインスタレーション、新作を織り交ぜて展示され、会期中は長沢による金箔や銀箔を使ったワークショップなども行われる。
[日程]2月8日～4月12日
[会場]横須賀美術館

北陸・中部

●新潟市
新潟市芸術文化振興財団
〒951-8132　新潟市中央区一番堀通町3-2
Tel. 025-224-7000　中尾友彰
https://www.ryutopia.or.jp/

りゅーとぴあアウトリーチ事業 第4期登録アーティスト ジョイント・コンサートin秋葉区

登録アーティスト2名が、2年間にわたって市内各地の小学校等でアウトリーチを行う事業の1年目の集大成となるコンサート。2019年度は小武内茜(ファゴット)と田村亮太(サクソフォン)の2名で28公演を実施。子どもという厳しい聴衆に鍛え上げられ、熟成された演奏を一般の観客に披露する。ゲストに地元でも人気の元東京交響楽団首席奏者の西谷牧人(チェロ)、新居由佳梨(ピアノ)を迎える。
[日程]3月7日
[会場]新潟市秋葉区文化会館

●長野県飯山市
飯山市文化交流館なちゅら
〒389-2253　飯山市大字飯山1370-1
Tel. 0269-67-0311　田中洋道
https://iiyama-natura.jp/

日本古楽アカデミー　バロック音楽飯山公演

大阪市と飯山市の市民交流姉妹都市企画として、上方落語の名跡・桂花團治を迎えてバロック音楽のコンサートを開催。大阪が誇る新進気鋭のバロック音楽集団・日本古楽アカデミーがバッハやテレマンといったドイツ・バロックの巨匠たちの器楽曲をオリジナル楽器で演奏する。共演プログラムでは、組曲『ドン・キホーテのブルレスケ』の演奏と花團治による軽妙な解説がコラボレーションし、客を中世スペインの世界へと誘う。
[日程]3月1日
[会場]飯山市文化交流館なちゅら

●岐阜県岐阜市
岐阜県美術館
〒500-8368　岐阜市宇佐4-1-22
Tel. 058-271-1313　青山訓子
https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/events/colormagic/

カラー・マジック　田口コレクションと安藤基金コレクションから

所蔵品の核を成す2つのコレクションから"色"をテーマに作品を紹介する展覧会。白/黒、赤、青といった色ごとに、岩絵具の日本画から油彩画、パステル画、立体作品までさまざまな作品が展示され、見る人にさまざまな"色"を感じてもらうとともに、どのような作品が美術館にあるのかを知ってもらう機会にもなっている。学芸員による「いろいろギャラリートーク」も実施。
[日程]1月9日～3月22日
[会場]岐阜県美術館

●愛知県高浜市
高浜市やきものの里かわら美術館
〒444-1325　高浜市青木町9-6-18
Tel. 0566-52-3366　後藤規絵
http://www.takahama-kawara-museum.com/

未来からの扉～2000年後のやきもの王国へようこそ！～ コラボ・プチ展示「柴川敏之｜2000年後の未来旅行」

同時開催中の企画展「やきもの王国―中世猿投窯と常滑窯―」と美術家の柴川敏之がコラボレーション。柴川の手によって、日常の見慣れた物が2000年後の姿(化石)で展示会場に出現。これらの作品と企画展や所蔵品との共存により、鑑賞者の想像力を一層育み、アートへの興味を促す。柴川と子どもたちによるワークショップも実施する。
[日程]1月18日～3月22日
[会場]高浜市やきものの里かわら美術館

近畿

●三重県津市
三重県文化会館
〒514-0061　津市一身田上津部田1234
Tel. 059-233-1112　南谷雄司
https://www.center-mie.or.jp/bunka/

三重県総合文化センター開館25周年記念事業「とびだせ！みえの絵本作家たち展2020」

三重県総合文化センター開館25周年を記念して9年ぶりに開催。応援団長にスズキコージを迎え、三重ゆかりの絵本作家19名が出展する。絵本作家によるワークショップや、四日市市の子どもの本専門店「メリーゴーランド」店主によるギャラリートーク、津市を拠点に活躍する劇団「第七劇場」による芝居など、絵本の世界を観て、体験して、遊びつくすイベントが目白押し。
[日程]3月14日～29日
[会場]三重県文化会館

前回の展示の様子

●大阪府豊中市
豊中市立文化芸術センター
〒561-0802　豊中市曽根東町3-7-2
Tel. 06-6864-3901　嶋崎徹
http://www.toyonaka-hall.jp/

針山愛美ダンスプロジェクト vol.3 ～とよなかのひとびととともに～

世界的バレエダンサー・針山愛美を迎え、昨年12月から行ってきた市民参加ワークショップの発表公演。2017年度より毎年実施しており今年で3回目。子ども向け・経験者向けとレベル分けしたクラシックバレエのコースや、さまざまなダンスなど、計5つのコースで練習。既存の舞台ではなく、豊中独自の創作舞台を目指し、各コース10回以上もの稽古を重ねてきた集大成を発表する。
[日程]3月8日
[会場]豊中市立文化芸術センター

●大阪府箕面市
箕面市メイプル文化財団
〒562-0001 箕面市箕面5-11-23
Tel. 072-721-2123　和田大資
http://minoh-bunka.com/

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

身近なホールのクラシック 大阪交響楽団　特別演奏会

クラシック音楽を誰もが楽しんでほしいという願いが込められたコンサートシリーズ。今回は、大阪交響楽団が登場。共に次世代を担う逸材として期待の高い指揮者の坂入健司郎とヴァイオリニストの石上真由子を迎え、生誕250周年を記念してベートヴェンの名曲を披露する。オーケストラのメンバーによるレクチャーコンサートも予定。

[日程] 3月18日

[会場] 箕面市立メイプルホール

●神戸市

神戸アートビレッジセンター

〒652-0811　神戸市兵庫区新開地5-3-14

Tel. 078-512-5500　岡村有利子

https://kavc.or.jp

ART LEAP 2019 「いらっしゃいませようこそ」

30～40歳代の若手作家を対象に展示プランを募り、意欲的な挑戦の場となることを期待する公募プログラム。2回目となる今回は、審査員に森美術館館長の片岡真実氏を迎え、潘逸舟を選出。潘は「移動する身体」をテーマに、神戸という土地の特色でもある移民の歴史や外国人移住者、労働者についてリサーチを行い、クロスジャンルな展示空間に新作を展開する。

[日程] 2月22日～3月15日

[会場] 神戸アートビレッジセンター

●兵庫県西宮市

兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204　西宮市高松町2-22

Tel. 0798-68-0223　横守稔久

http://www1.gcenter-hyogo.jp/

春休みPAC子どものための オーケストラコンサート

兵庫芸術文化センター管弦楽団による3歳児から入場可能な春休み恒例のコンサート。今回はオーケストラがオリンピックにちなんだ有名曲を演奏するほか、鍵盤ハーモニカ奏者の吉田絵奈をゲストに迎え、鍵盤ハーモニカでさまざまなジャンルの曲が披露される。また観客はリコーダーや鍵盤ハーモニカなど客席で演奏できる楽器を持参し、出演者と共に『エーデルワイス』を演奏する参加コーナーも設けられる。

[日程] 3月28日

[会場] 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

●兵庫県伊丹市

伊丹市立工芸センター

〒664-0895　伊丹市宮ノ前2-5-28

Tel. 072-772-5557　藤川南津子

https://mac-itami.com/

「本気のTシャツ展」

染織や金工、陶芸、版画、写真、ジュエリーなどの世界で活躍するアーティスト60名が本展に向けてTシャツを製作。生地製作や縫製から取り組んだもの、異素材と組み合わせたものなど巧みな技術と創造力で生み出されたTシャツの概念を覆す作品が並ぶ。展覧会初日には、アーティスト自身が作製したTシャツを紹介するギャラリートークも開催される。

[日程] 3月7日～29日

[会場] 伊丹市立工芸センター

●奈良県大和高田市

大和高田さざんかホール

〒635-0082　大和高田市本郷町6-36

Tel. 0745-53-8200　吉村昌章

http://www.city.yamatotakada.nara.jp/sazanka-hall/

大和高田市民劇団さざんか 第32回本公演 『ゴッドファーザーの息子』

1997年に発足した劇団さざんか。現在13名が所属し、年に2回、本公演とファミリー劇場の上演を行っている。今回は、近隣の上牧町のミュージカル劇団「ペガサス」との共演が実現し、さざんかの団員が演出を担い、父子の屈折がありながらも深い愛情の物語を上演する。

[日程] 3月14日、15日

[会場] 大和高田さざんかホール

●島根県雲南市

雲南市演劇によるまちづくりプロジェクト実行委員会

〒699-1311　雲南市木次町里方55（チェリヴァホール内）

Tel. 0854-42-1155　糸川悠介

https://www.cheriver.com/

雲南市創作市民演劇2020 『花みちみちて街』

2010年から取り組んでいる創作市民劇の10周年記念公演。木次町の桜並木が日本さくら名所100選認定30年を記念し、「桜」をテーマにした作品を上演する。高校演劇で知られる市内在住の亀尾佳宏が脚本を執筆、キャスト35人が公演に向けて秋から稽古を重ねている。子どもたちに観劇のきっかけとしてもらいたいとの思いから、中学生以下は先着で無料招待している。

[日程] 3月28日、29日

[会場] チェリヴァホール（雲南市木次経済文化会館）

●岡山県真庭市

真庭エスパス文化振興財団

〒719-3214　真庭市鍋屋17-1

Tel. 0867-42-7000　中山雅貴

http://kuse-espace.jp/

早川太鼓エスパスの陣・弐拾弐 誑惑的堕落論

1987年から真庭市（旧久世町）で活動を始めた和太鼓グループ・早川太鼓の公演。定期コンサートでは毎回新曲が追加されており、エスパスが運営している「エスパス太鼓クラブ」の子どもたちも出演する。伝統芸能としての和太鼓から脱却し、新たな創造を目指してジャンルを超えた演奏を行う早川太鼓の公演は、音楽はもちろん演出や照明のこだわりも見どころのひとつ。

[日程] 3月22日

[会場] エスパスホール

●山口県岩国市

シンフォニア岩国

〒740-0016　岩国市三笠町1-1-1

Tel. 0827-29-1600　重村京子

https://www.sinfonia-iwakuni.com/

ブラス・フェスタ2020「みんなでミュージッキング」成果発表コンサート

プロの演奏家による吹奏楽クリニックの成果発表コンサート。1月より楽器ごとのパートに分かれて行ったレッスンの集大成として、ホールイベント「シンフォニア・フェスタ」内で演奏。音楽学者Ch.スモールが提唱する「ミュージッキング」の理論を用い、レッスン・発表を行う。フルートやクラリネットをはじめとする12種の楽器で、総勢110名による演奏を予定。

[日程] 3月28日

[会場] シンフォニア岩国

昨年の公演

●愛媛県松山市

愛媛県美術館

〒790-0007　松山市堀之内

Tel. 089-932-0010　喜安嶺

https://www.ehime-art.jp/

没後20年 畦地梅太郎 山のなか、本のなか

愛媛県二名村（現・宇和島市三間町）出身の畦地梅太郎は、山

の風景や生き物、代表作《山男》など、さまざまな角度で山を表現した版画家。没後20年、そして当美術館での10年ぶりの回顧展として、初期から最晩年までの作品270点超を展示。また、長きにわたり手がけられた書籍の装丁や蔵書票など、畦地ならではの“本の仕事”についても紹介している。
[日程]2月1日～3月29日
[会場]愛媛県美術館

九州・沖縄

●鹿児島県鹿児島市
鹿児島市立美術館
〒892-0853　鹿児島市城山町4-36
Tel. 099-224-3400　田村桂子
https://www.city.kagoshima.lg.jp/artmuseum/

バウハウスの教育者たち―カンディンスキーとアルバースの版画を中心に

バウハウスは1919年にドイツに開校された、工芸、デザインを含む美術と建築に関する総合的な教育機関で、幾何学的、構成的な表現を主体とした革新的な教育理念の下、次代を切り開く優れた建築家やデザイナーを輩出した。本展では、美術館の所蔵品の中からバウハウスの教育者であるカンディンスキーとアルバースの版画を中心にバウハウスの試みを振り返る。
[日程]2月11日～3月28日
[会場]鹿児島市立美術館

講座・シンポジウム等

震災と文化―災害多発の時代に問う公共ホールとアートにできること

毎年のように災害が続く日本において、災害時にアートに何ができるのか、災害多発時代の公共ホールの新たな使命とは何かを考えるプログラム。1日目は「災害続きの日本で、今、アートを考える」と題し、東日本大震災当時せんだい演劇工房10-BOXの二代目工房長を務めていた八巻寿文氏による基調講演のほか、阪神淡路大震災、東日本大震災、平成28年熊本地震の際に立ち上がった団体や活動を行った方々を招き、現地報告や公開ミーティングを行う。2日目は公共施設での避難所対応のあり方を学ぶ研修を実施する。
[日程]3月15日、16日
[会場・問い合わせ]サザンクス筑後　Tel. 0942-54-1200
https://www.sathankusu-chikugo.or.jp

春のフェスティバル特集

●青森県、岩手県内各所
3月1日～15日

三陸国際芸術祭―冬―

三陸沿岸地域を舞台とした郷土芸能の国際芸術祭。6回目となる今年は「触レル」をテーマに、秋と冬の2回に分けて三陸沿岸の11地域でプログラムを展開。冬プログラムではマレーシアのバジャウ伝統音楽舞踊団との交流のほか、三陸各地の郷土芸能団体による舞踊披露、トークイベントなどを開催。郷土芸能と世界を結びつけ、創造的な地域づくりと復興を目指す。
㊗青森県、岩手県内各所（階上町、普代村、洋野町、田野畑村、宮古市、大船渡市）
㊐三陸国際芸術推進委員会
Tel. 0192-22-9830

●さいたま市
3月14日～5月17日

さいたま国際芸術祭2020 –Art Sightama–

「さいたまトリエンナーレ」として2016年に第1回が開催され、今回から「さいたま国際芸術祭」として開催しているアートフェスティバル。2回目の今回は、昨年移転した大宮区役所旧庁舎と旧大宮図書館をはじめ、回遊型パフォーマンスなど市街地でも作品が展示・上演される。ディレクターは映画監督の遠山昇司。日本フィルハーモニー交響楽団や、菅原直樹／「老いと演劇」OiBokkeShiの新作公演、詩人の最果タヒなどさまざまなジャンルの作家・作品も数多く参加し、多彩な感性が交わる芸術祭を展開する。
㊗旧大宮区役所、旧大宮図書館ほか
㊐さいたま国際芸術祭実行委員会事務局　Tel. 048-829-1225

さいたまトリエンナーレ2016
長島確＋やじるしのチーム《←（やじるし）》
（太田省吾による演劇作品「↑（やじるし）」シリーズに着想を得た、市内全域に←を掲げる誰もが参加できるプロジェクト）
Photo: KAWASE Kazue

●千葉県市原市
3月20日～5月17日

房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020「房総の里山から世界を覗く」

鉄道ファンにも人気の高い小湊鉄道に乗車し、駅舎や周辺の廃校などに繰り広げられるアート作品をめぐる芸術祭。17の国と地域から約80組のアーティストが参加。「晴れたら市原、行こう。」をコンセプトに掲げ、車窓から眺める菜の花畑や田園の風景、千葉県内有数の観光地「養老渓谷」など、アートとともに地域の魅力を併せて楽しむことができる。
㊗小湊鉄道周辺エリア
㊐いちはらアート×ミックス実行委員会　Tel. 0436-50-1160

●静岡市　3月14日、15日

七間町ハプニング4

プロアマを問わず100名を超えるパフォーマーが市の中心市街地七間町界隈の劇場やストリートなどでパフォーマンスを繰り広げる。地域資源を掘り起こし、プロアマが協働することを目指して企画された。界隈の史実を元にした市民参加による演目やノーギャップダンス＆パレードも見どころ。
㊗コミュニティホール七間町、静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター、札の辻クロスホールほか
㊐静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター（CCC）
Tel. 054-205-4750

●静岡県島田市、川根本町
3月6日～22日

UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川2020

大井川鉄道沿線の無人駅エリアを舞台にした芸術祭。3回目の開催となる今回は、13組のアーティストが市内の空き家に滞在し、市民と交流しながら作品を制作する。作品を個人宅に貸し出すプロジェクトや作品制作ワークショップのほか、「あんまん部」と呼ばれるサポーターを募り、市内外からさまざまなかたちで参加できる。また会期中はお茶どころならではの給茶スポットや縁側カフェも楽しめる。
㊗大井川鉄道無人駅周辺
㊐NPO法人クロスメディアしまだ
Tel. 0547-35-0018

前回の展示風景　中崎透《Tea Factory Ballade》©UNMANNED 無人駅の芸術祭

▼—今月の情報（アーツセンター編）

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方
情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い
地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター（ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます）の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄で掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先
地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp

●宮城県女川町
女川町生涯学習センター
〒986-2265　牡鹿郡女川町女川1-1-1
Tel. 0225-53-2295
https://www.town.onagawa.miyagi.jp/
◎2018年10月1日オープン

東日本大震災の津波によって全壊の被害を受けた女川町役場庁舎の新築に合わせ、保健センター、子育て支援センターとの複合施設としてオープン。
庁舎は高台にある住宅街とＪＲ女川駅や新しい複合商業施設シーパルピア女川の間に位置し、商業施設・観光施設とともにコンパクトな市街地を形成する拠点施設として大きな役割を担う。
生涯学習センター内にあるホールは講演やコンサートなど多目的に利用できるエンドステージ型の多機能イベントホール。客席は女川町では初めて導入された可動式で、イベントに合わせて席数を調整できるほか、平土間による利用も可能となっている。
開架3万冊・児童書1万冊・閉架4万冊から成る図書室も併設されており、まちの文化振興の拠点、子育ての拠点としての活用が期待される。
[オープニング事業]こけら落とし公演「東北弁落語六華亭遊花」ほか
[施設概要]ホール（412席）、楽屋、研修室1・2、図書室ほか
[設置・管理者]女川町
[設計者]（株）梓設計

●群馬県高崎市
高崎芸術劇場
〒370-0841　高崎市栄町9-1
Tel. 027-321-7300
http://takasaki-foundation.or.jp/theatre/
◎2019年9月20日オープン

「音楽のあるまち高崎」の拠点を担ってきた群馬音楽センターの歴史と精神を継承・進化させ、高崎駅東口エリアの再開発地域に整備された大型文化施設。敷地内には今後、商業施設や交流スペースをもつビジネスゾーン、子ども図書館の整備が計画され、「集客都市機能」「業務核都市機能」の拠点となることが期待されている。
オーケストラやオペラ、ポップスなどの大型公演に対応し、国内最大級の舞台面積と舞台間口の広さをもつ大劇場や、リサイタルや室内楽に適した音楽ホールをはじめ、可動式の舞台・観客席でライブから演劇、能など幅広い公演が可能なスタジオシアター、大劇場の主舞台と同じ広さをもつリハーサルホールなどを備え、「鑑賞と創造」の双方に快適な施設を目指す。
今後は上質な鑑賞事業を実現するとともに、劇場を拠点とする群馬交響楽団の創造性の高い活動も期待されている。
[オープニング事業]高崎芸術劇場開館記念演奏会「歓喜の歌」
[施設概要]大劇場（2,027席）、スタジオシアター（最大568席）、音楽ホール（412席）、創造スペース
[設置者]高崎市
[管理・運営者]（公財）高崎財団
[設計者]（株）佐藤総合計画

●東京都渋谷区
東京都渋谷公園通りギャラリー
〒150-0041　渋谷区神南1-19-8 渋谷区立勤労福祉会館1F
Tel. 03-5422-3151
https://inclusion-art.jp/
◎2020年2月8日グランドオープン

海外からの観光客も含め多くの人でにぎわう渋谷公園通り沿いにあった芸術発信拠点「トーキョーワンダーサイト渋谷」跡地に暫定的に開業していたアートギャラリーが、2年間の改修を経てグランドオープン。
パラリンピック開催を契機に、あらゆる人が芸術文化を享受できる社会基盤を構築し、文化面でも世界で最もバリアフリーな都市を目指す東京都が、アートを通したダイバーシティの理解促進や共生社会の実現を目指して、アール・ブリュット等の振興拠点として整備した。
施設は2つの展示室を備え、人通りの多い公園通り側に面したガラス張りの交流スペースでは、ライブ・コンサートやパフォーマンス、アーティスト・トークなどのほか、関連書籍の閲覧も可能。
事業運営は東京都現代美術館が担い、アール・ブリュットを中心に年間4本程度の展覧会を開催していく予定。
[オープニング事業]グランドオープン記念事業 展覧会「あしたのおどろき」
[施設概要]展示室1・2（231.90㎡）、交流スペース（67.06㎡）ほか
[設置者]東京都
[管理・運営者]（公財）東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 文化共生課

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

岩手県宮古市

宮古市民文化会館 みやこ市民劇第2回公演『鍬ヶ崎エレジー 激闘！宮古港海戦』

上：公演の様子／下：気合い入れミーティング

●みやこ市民劇第2回公演『鍬ヶ崎エレジー 激闘！宮古港海戦』
[会期] 2020年2月8日、9日
[会場] 宮古市民文化会館 大ホール
[主催] みやこ市民劇実行委員会、特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター
[原作] 平谷美樹『鍬ヶ崎心中』
[脚本] 道又力　[演出] 坂田裕一
[音楽監督・指揮] 寺崎巌
[作曲] 柏村実　[大漁踊り指導] 泉秀樹

＊1　地域文化の形成とコミュニティの活性化を目的に2005年に設立し、風のスタジオ/風のアトリエを開設。東日本大震災後、いわて文化支援ネットワークの事務局として活動。盛岡市職員として盛岡劇場や盛岡文士劇を立ち上げ、自ら劇団活動も行う坂田裕一氏が理事長。小説家の高橋克彦、いわてフィルハーモニー・オーケストラ代表の寺崎巌、脚本家の道又力ら盛岡の文化人が参画。もりおか町家物語館、宮古市民文化会館指定管理者。

＊2　江戸～蝦夷・松前の東廻り航路の寄港地として繁栄した宮古の鍬ヶ崎芸妓が漁師の出で立ちで披露した大漁祈願の踊り。半世紀前に途絶えたが、映像（部分）、楽譜、聞き取り等を元に泉流家元・泉秀樹が創造的に復活。宮古の芸能として継承することを目指す。

＊3　みやこ市民劇を支える中核団体として2018年に発足。宮古市民文化会館を拠点に活動し、テクニカル・ワークショップなどで裏方としての腕を磨き、市民劇との交互開催で自主公演を行う。

「ホール文化による地域再生」の取り組みによって今年度の地域創造大賞（総務大臣賞）を受賞したのが、東日本大震災から立ち上がった宮古市民文化会館だ。そのシンボルとして2017年にスタートしたみやこ市民劇（隔年開催）の第2回公演『鍬ヶ崎エレジー　激闘！宮古港海戦』が、2月8日、9日に満員の観客を前に披露された。宮古湾から約500メートルの同館は震災で地下と1階部分が浸水。3年の改修期間を経て、14年12月に再オープンに漕ぎ着けた。改修後、新たな指定管理者として運営に携わることになったのが、盛岡市内で小劇場を運営する特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター(＊1)だった。盛岡からJR山田線で2時間余り。新作市民劇を取材するため宮古を訪れた。

●

2月8日、初日の開演1時間前。7歳から79歳までの出演者76人、楽隊54人、スタッフ60人余りが全員大ホールのステージに集まり、“気合い入れ”というミーティングを行っていた。特別出演する宮古市長や室蘭市長、観光文化交流協会会長、三陸鉄道社長などの名士、ピンスポットを務める市教育委員会文化課長、衣裳の浴衣を着た子どもたち、元わらび座の経歴をもつ隣町の市民、舞台監督を務める若い市議会議員など、立場に関係なく、同じ釜の飯を食った“芝居仲間”として全員が勢揃いし、誰ひとり疎かにしないそのミーティングに、みやこ市民劇の真髄を見た気がした。

今回の舞台は、1869年に勃発した「宮古港海戦」（旧幕府軍による明治新政府軍の軍艦奪取作戦）の史実をモチーフにした小説が原作。新天地・蝦夷の箱館を拠点に共和国建国を目指す榎本武揚、土方歳三ら旧幕府軍の志士による戦いに、新政府軍に恋人を殺されて復讐を誓う元盛岡藩藩士・和磨と鍬ヶ崎芸妓・千代菊の恋、時代に翻弄されながらも逞しく生きる港の民がクロスする3時間の大作。専門家の指導を受けて、衣裳も大道具・小道具も手づくり。スタッフを含む全員の名前が記されたタイトルロールを映画のように流すオープニング、生演奏によるオリジナル・ソング、巨大セットによる奪取作戦の再現、当時の鍬ヶ崎芸妓が踊っていた「大漁踊り」の復活(＊2)という盛り沢山の内容だ。

みやこ市民劇を提案し、演出を務めた坂田裕一いわてアートサポートセンター理事長は次のように話す。「市民劇のテーマは“復興”。第1回では、復興道路が宮古まで開通したタイミングだったので、三陸地方の“いのちの道”宮古街道を切り拓いた僧侶・牧庵鞭牛和尚を主人公にした。今回は、宮古から室蘭までフェリーが開通したこともあり、“海の道”に着目した。震災後、文化会館をツールにしてどうすればコミュニティの繋がりをつくれるかをずっと考えてきた。市職員として盛岡劇場で市民参加劇を立ち上げたが、それは地域の演劇を活性化するための土壌づくりでみやこ市民劇とは目的が違う。震災後、演劇に意義はあるのかと追い詰められたこともあった。しかし、二戸市民文士劇の立ち上げに携わったとき、市役所の新採用職員が全員参加し、人が劇的に変わるのを目の当たりにした。たわいもないことで人は成長できる。市民劇をツールにコミュニティが刷新できる可能性に気付き、宮古で立ち上げた」

第1回の参加者約30人が主体的に立ち上げたのが「みやこ市民劇ファクトリー」(＊3)だ。代表の冨田淳治さんは震災復興支援員として2017年度から3年間宮古に移住。「市民劇は参加したそれぞれがみんな主人公で、地域の人がもともともっていた強さを前に進む力に変えてくれた。郷土芸能より自由なので誰もが参加できるから、僕もいろいろな人と繋がることができた」と話す。演出助手も務めた観光文化交流協会の山根真生子さんは、「震災があり、地域外から多くの人が来られて市民には戸惑いがあった。それが、埋もれた才能、原石のような人達が集まってひとつのものをつくり上げ、市民劇を成功させて仲間になれた」と笑う。

カーテンコールでは、自由と平和の理想郷となる共和国建国を宣言する劇中歌、鍬ヶ崎の女たちの底力をアピールする劇中歌が響き、まるで宮古市民の復興への心意気を歌い上げているかのようだった。　（坪池栄子）